

2005年を展望する

理事長基調講演

湯河原厚生年金会館にて(編集部抜粋)

本年は、大きな社会的動きを踏まえて、各事業所の計画を考えるべき時期にきていると思います。そこで2004年の医療、福祉をめぐる政治的動きを取り上げてみましょう。

<株式会社の病院経営への参入の動き>

一つは株式会社を病院経営に参入させようとの動きが強まりました。その結果、自由診療だけを行う株式会社の参入が特区に限り認められました。しかし、行うところは在りません。日本の医療は皆保険診療で行われており自由診療だけというのは困難です。たとえば、自由診療をしています。その医療行為が保険に組み入れられたらどうなるか？みんな保険診療のきく病院へ行き自由診療を受ける人はいません。

だから、手を挙げる会社は一社もなかったのです。

<医療法人の見直しー認定医療法人制度>

しかしこの動きの中で副産物があります。医療を営利化しようというこのような

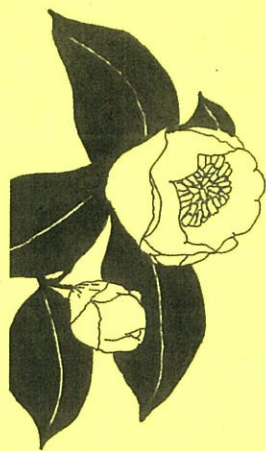
主張は医療法人の非営利性がはっきりしていないと言うことを理由としています。厚労省の検討会では、これに対し、医療法人を公益法人の方向へ行くように結論を出しました。

そこで試案として出てきたのが認定医療法人制度です。これは、税率を無税か公益法人並にし、公募債を発行したり、特別養護老人ホームなどこれまで社会福祉法人でないとできなかった福祉施設の経営を可能にしています。更に、地域の医療計画を立てる場合、これまでは公的病院以外は土俵に上げなかったものを転換して、公的病院と同等に扱い、それどころか不採算の公的病院の経営の受け皿にし、自己資本比率などこれまで医療法人の拡大を阻んできた規制のハードルを下げ、拡大を支援する方向性を示しています。これは、公的病院の経営が極めて非効率的で、これを主体に医療提供体制の再編を行うことは得策ではないのではないかという考えが背景にあり、まさに政策の大転換であるといえるでしょう。このような、

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩『海燕の歌』(1901)に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

(編集部によるダイジェスト)



白玉

認定医療法人とは、石心会のような特定医療法人や特別医療法人（知事認可）を統合し、監査法人による監査を義務付けるなど公益性をより強めようというものです。一般の医療法人から見ると高いハードルかもしれませんが石心会にとっては明日からでも移行出来る内容です。私たちが31年前の法人発足時に目指した「公益法人としての医療法人」という考え方が国から出てきたことは歓迎すべき事であるし、もしも、非課税になれば幸病院の移転計画など今後の事業展開にとって大きな朗報となるはずです。

＜混合診療問題が提起した医療の質＞

混合診療をめぐる大きな動きが昨年暮れにありました。日本医師会を始め各団体が協同して混合診療に反対する署名活動を行い攻防戦が行なわれました。結局、特定療養費制度の拡充という常識的な線で落ち着きました。今後の問題は実質的な混合診療になってしまうかどうかです。

注意すべき点は、混合診療を主張した人々が、「日本人は良い医療を受けられるのか？」と医療の質を問題にし、それが一定の賛同を得たことです。彼らが、主張しているのは、米国の一部金持ち対象の医療の、わが国の平均的医療に対する優位性を言っているに過ぎませんが、

「医療の質」をめぐる論議に火をつけたことは確かです。言い換えれば、われわれが、質の問題に回答を出さなければならないと言うことです。診療情報・治療成績、機能評価の拡大と公表が一段と進むでしょう。

＜介護保険の見直し＞

12月頃方向がハッキリしたのが介護保険の見直しです、基本のところ厚生労働省の思惑が挫折しました。中心は対象者の拡大であり、年齢引き下げの問題でした。このためには、加齢と疾病という現行の要件を撤廃する必要があり、介護に純化するため、医療との関係を整理する必要があり、同時に年金との重複支給の整理なども必要になります。全てが先送りになったため、当面は大きな変化はありませんが、いずれ再燃します。

＜公的病院と私的病院の競争＞

このように深いところで医療体制の今後を左右する動きが進んでいます。以上の事柄から、公的病院と私的病院の差別は今後の医療界ではだんだんと薄らいでいくことがハッキリしたと思います。そこで肝心なのは公的病院との競争が始まりつつあるという点をはっきり見据える事です。

「税金を取られる病院」と「税金を投入してもらえる病院」という極端な差別の中で生き残ってきた私的病院は、「救急を積極的に担って来た病院」と、夜間透析等「特殊領域を担って来た病院」です。これからは、これまでと違った対等な競争が始まります。そこで公的な病院も必死になって救急を行いだすと思います。

しかしながら、これまでハングリーに戦って来た私達が負けることはありません。質の高い医療を貫徹し、競争に勝ち抜くのみです。

川崎幸病院移転新築が決定!!

編集部

1月27日、2008年に川崎幸病院が移転することが決まりました。

正確に言いますと、川崎市住宅供給公社の「川崎駅西口大宮町計画民間共同事業者募集」に関して選定委員会から、優先交渉権者として選定され、それを受けて川崎市住宅供給公社から指定を受けた事を指しています。今後、もちろん資金面のことなどいろいろ関門はありますが、対外的にはこれで一段落ついたといえるでしょう。選定委員会（民間共同事業者選定委員会）の講評では、石心会を評価した点として以下の文言があります。「医療施設として地元で評判も高く、救急医療など地域のニーズを熟知している点、地域医療施設など地元に着した活動を推進してきたことが高く評価された……」

これが、意味するところは二つあります。ひとつは救急車の受け入れ台数が川崎区、幸区の医療機関の中で市立川崎病院を

抜いてトップである事です。二つ目には、川崎市内の病院で開放型病院は川崎幸病院のみ、かつ登録医師は150人に上り、地域医療連携を実践していることです。今後とも、地域に密着し、地域ニーズに基づいた科学的で適正な医療実践がわれわれの前途を切り開いてくれるといえるでしょう。

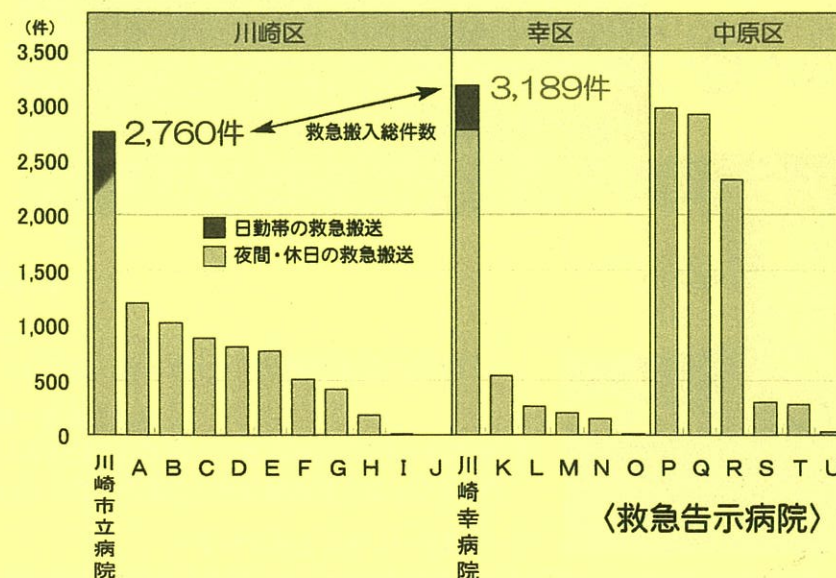
応募したグループ名

- ・医療法人社団 愛友会
(上尾中央医科グループ)
- ・アビリティーズ・ケアネット株式会社
- ・川崎市における新生活基盤ネットワーク
- ・生活科学グループ
- ・財団法人 聖マリアンナ会
- ・石心会グループ
- ・積水ハウス株式会社

以上7グループの中で石心会が優先交渉権者として選定されました。

【川崎市南部医療圏救急告示病院の夜間・休日救急車受け入れ件数】

※平成15年度実績



■川崎南部医療圏の救急告示病院における、夜間・休日の救急受け入れ件数比較をしている。

尚、川崎市立病院は、日勤帯も含めた救急搬入総件数 2,760件が公表されているので、比較のため、当院も日勤帯の搬入件数を合わせた総件数 3,189件をグラフにした。

狭山病院、緩和ケア病棟完成

編集部

緩和ケア病棟は治療困難な悪性腫瘍の患者さんが、その最後の時までその人らしく、生き生きと快適に生活できるよう、患者さんとご家族を支えることを目的としています。本館5階に8床の病棟として完成しました。

木目調で統一された病棟内には、デイルーム、面談室、キッチン、家族控室などを備えています。又、病室は全室個室で、その人らしい時間を過ごせるように、プライバシーに配慮されています。緩和ケア病棟は医師、看護師、看護助手、

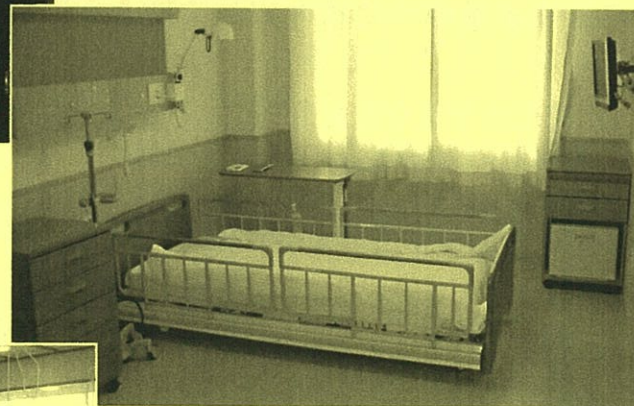
病棟事務員が担当し、必要に応じてソーシャルワーカー、薬剤師、理学・作業療法士、臨床心理士等が協力します。

ご本人の希望、選択を最優先と考え、ご家族の希望をも尊重し、チームメンバーが援助のプログラムを立てます。その人らしく、生き生きと快適に過ごせるように、身体的・精神的苦痛の緩和を可能な限り行います。職員一同の心通う優しい医療が求められるところです。

なお、緩和ケア病棟の運用は、3月1日予定です。



〈11月13日に内覧会が開催されました〉



〈病室〉



〈ナースステーションとパントリー〉

★トピックス①

インドネシア・スマトラ沖地震 災害支援について

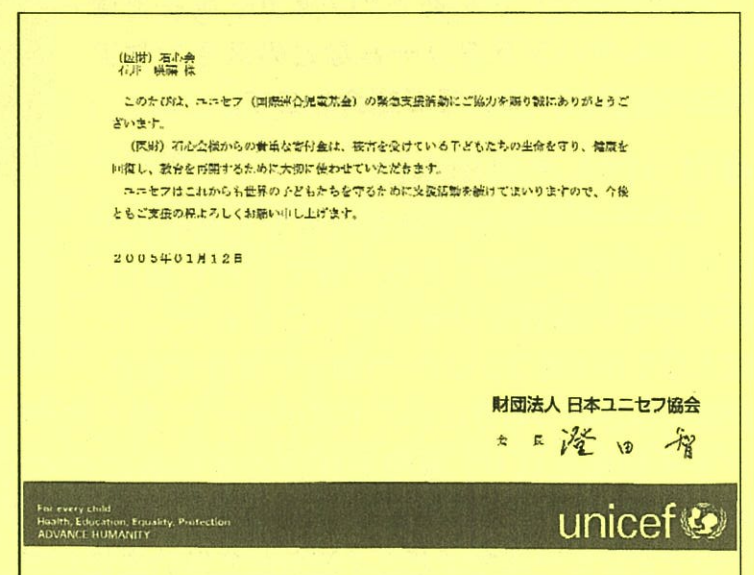
マスメディアの報道でご承知のように、昨年インドネシア・スマトラ沖で起きた大地震に端を発する津波災害などにより、インド洋に面する各国において死者・不明者の合計が29万人を超えるといわれる未曾有の被害が出ています。石心会では、緊急援助の第一弾として、12月28日よりインドネシアのアチェに入り、多国籍医師団緊急医療救援活動を展開しているAMDAに対し100万円を、5万人規模の孤児が発生するといわれる中で国連児童基金(ユニセフ)に対し100万円を送ることを決定しました。なお、今後の諸情勢をみながら追加支援を行う心積もりをしています。世界有数の地震災害国であるわが国の国民として、職員の皆さんにおかれましては、多数の被災民の惨状に心を馳せ、義援金募集に協力をいただくようお願いいたします。

1月31日時点の義援金を中間報告します。

合計 851,964円

引き続き皆様のご協力をお願い致します。

ユニセフより書面を頂きましたので紹介します。



★トピックス②

新潟県中越地震被災者への支援を報告します。

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震により大きな被害を受けた方々が、厳冬の中、雪と戦っているのはご存知の通りです。皆様のご協力による石心会の支援状況を報告します。

＜寄付金＞

法人から
10月26日 日本赤十字社新潟県支部へ50万円
職員・患者さんから
11月22日 日本赤十字社新潟県支部へ1,194,291円
11月30日 日本赤十字社新潟県支部へ17,516円

＜救援物資＞

11月1日	卓上カセット式コンロ	150台
	カセット用ガスボンベ	864本
	使い捨てカイロ	1,200個
11月4日	毛布	100枚
	タオル	200枚

以上を送りました。

《趣味探訪》

アロマオイルを入れた手作りせっけんとクリーム

川崎幸病院 透析室 松崎 久子

趣味探訪に寄稿することになったと親友に知らせたところ、「どれにするの?」と聞かれてしまいました。たしかに読書や日曜大工や息子と行くアスレチック、旅行、ガーデニング、手芸、料理(すなわち自宅で宴会を開くこと)など趣味はたくさんあるのですが、ここではせっけんやハンドクリームなどのスキンケア用品の手作りについてご紹介します。

●せっけんと出会い

からだの不自由な祖母の手で4歳半までほとんど外に出ることなく育てられた私は、体力のない風邪をひきやすいこどもでした。成人してからアレルギー性鼻炎や気管支喘息、皮膚炎などいつもどこかに不調があって、薬と縁が切れませんでした。社会人になってすぐ不眠症となり、服用を続けた睡眠剤の副作用で吐気が止まらなくなった時、薬を飲まないで生活できないものかとアロマセラピーの勉強を始めました。当時アロマセラピーは今ほど広く知られてはいませんでした。本も少なく、アロマオイルは品川まで出ないと手に入らず、値段も今の倍くらいでした。しかし、その時の不眠はいつのまにかなくなって、しばらくアロマセラピーのことは生活のすみっこへ追いやられていました。

ところで、せっけんを使うようになったきっかけは、妊娠でした。こどもの両親にアレルギーがあるとその子のアレルギーになる確率は、そうではないこどもよりも高いと聞いて、そのことが出産までの何よりの不安でした。そんなあるお休みの日に「せっけんシャンプー」という本を立ち読みしました。一般的に使われている石油系の合成洗剤であるシャンプーは頭皮や髪を傷めることや、身体にも吸収されアレルギーの一因になること、排水後も分解されにくいこと、せっけんとは油と水をアルカリで鹸化したもので安全で生分解性が高いことなどが書かれていました。要するに、せっけんはからだにも地球にもやさしいということになります。そして、帰りに立ち寄った雑貨屋で偶然にもせっけんシャンプーを見つけ、さっそく使ってみました。それから、入浴、洗濯、掃除、食器洗いなどに使うものを次々と石油系の合成洗剤からせっけん由来の製品に変えていきました。これで新しい家族を迎えるのに少しは安心になりました。しかし、安全は少々高くつくのでした。

その出産2年後には子宮癌となって、狭山病院で抗癌剤治療と手術を受けました。



体力を失くし、趣味にとれるのは家の中のわずかな時間になっていました。そんな折、「お風呂の愉しみ」という本に出会い、せっけんが手作りできることを知りました。これなら家で手軽にできます。そして安全を安く手に入れられるのです。

●せっけんと保湿クリームの作り方

まず、薬局に行って苛性ソーダを買います。それから油を用意します。主に食用のオリーブ油を使っています。苛性ソーダを水で溶かし油と共に1時間ほど時々休みながら攪拌します。煮物の様子を見たりちょっとした用事を間に入れながらで大丈夫です。そのあと丸1日思い出す度に少し攪拌します。そうすると元は水と油だったものがとろりと白くなるので、これを牛乳パックなどで作った型に流し込みます。この時にごぶさただったアロマオイルが入ります。相性を考えて好きな香りを3種類ブレンドします。1週間後に取り出して使いやすい大きさにカットします。さらに3週間待ちます。できあがり。

手をかけるのに合計2時間、わくわくして待つのに4週間、そのあとできあがったせっけんを実際使ってなくなるまで楽しみは続きます。このせっけんは、肌あたりのやわらかいいつまでも洗っていたくなるような使い心地です。泡立てる時に心地よい香りでゴージャスな気分となり、息子のからだを洗う時は安全だということに安堵します。アロマオイルに凝るとその分コストがあがりますが、そうでなければ1個100円くらいでできます。このグレードのオリーブせっけんをお店で買うと500円以上します。アロマオイルを手作りせっけんに入れるのは、香りを楽しめることとアロマオイルそのものの心身への効果が期待できるからです。香りの組み合わせや強さをコントロールできることが、手作りならではの魅力です。最近は、自家用だけではもったいない気がしてプレゼントに使っています。手荒れや湿疹がよくなったということでのリピーターもいます。

このせっけんには、オリーブ油に含まれる天然のグリセリンがそのまま残っているのでグリセリンの保湿効果を得ることができますが、それでも乾燥する冬場にはもう少し潤いが欲しいものです。せっかく安全なせっけんを使ってもその後に合成添加物の入った化粧水や保湿クリームを使っても台無しです。市販の安全なスキンケア商品はやはり少し値が張るため、次にはクリームを作るようになりました。

蜜蝋(みつろう)という蜂の巣からとる自然の蝋を植物油に湯煎で混ぜ込むだけの簡単なものですが、ここにもアロマオイルを入れてうっとりします。このクリームは10分位でできます。私たちの仕事は一处置一手洗いが基本で手荒れもしますから、一部の看護助手さんや我が透析室スタッフに好評です。透析室に常備しているクリームを申し送りにきたついでにつけていく病棟ナースもいます。

●手作りせっけんが心を変えた?

以前は、風邪をひけば喘息発作におびえ、体調が悪いと癌の再発を疑う戦々恐々の毎日でしたが、今はとても元気です。安全な食やスキンケア用品を手作りできるようになって健康を維持できる確信が持てたことで、安らかな気持ちで暮らす余裕ができました。

禁煙への取り組み

編集部

病院内での喫煙に関し、日本医療機能評価機構 大道久理事へのジャパンメディスンのインタビュー記事を抜粋してお知らせします。これは、病院機能評価の際、院内喫煙に関する機構の方針となるものと考えられますので注目する必要があります。

健康増進法が平成15年5月に成立しました。病院などの公共施設の管理者に対し、受動喫煙防止に努めるよう定めており、厚労省は国民の健康を守る医療機関の取り組みを調べて指導に生かしたい考えです。

－厚労省の調査－

- ・全国の都道府県庁舎のロビーや事務所からタバコが追放されて禁煙・分煙が進み、「庁舎内で自由にタバコが吸える都道府県」が平成16年1月時点で0になりました。
- ・3年に1度おこなう医療施設静態調査では次回2005年度調査に受動喫煙対策の項目を追加し、施設内の禁煙や分煙対策を調べます。

以上のように国を挙げて禁煙に取り組んでいます。

－日本医療機能評価機構－

本年7月から新評価体系(Ver5.0)を開始します。一般病棟の療養環境の認定要件については、『禁煙に取り組んでいるかどうか』が重視されるなど、受動喫煙防止の姿勢は現行(禁煙、分煙に配慮されている)よりも厳しく審査されます。同機構の大道久理事に、病院に求められる姿勢や評価のポイントについて聞きました。

－禁煙の範囲を教えてください－

基本的には建物内全館禁煙です。ただ、精神科病床、緩和ケア病床、長期療養病床での喫煙は、患者さんへの配慮という意味で、分煙の徹底が図られていればよしとされるでしょう。それ以外の一般病院については、禁煙への対応が求められます。

屋上はタバコの煙が上に流れるからいいのではという意見もあります。ただ、扉の開閉状況によっては煙が館内に流れ込むため適切とはいえません。非常階段の踊り場も、非常口を出入りすることになり適当ではないでしょう。また、喫煙場所が建物の外にあったとしても、出入り口付近に設置されているのは好ましくありません。

－医学的な意味の啓発が重要－

禁煙に向けた教育的活動を大きく評価します。吸うなの一着張りではなく、いかに健康被害があるのか、現実にはわが国の健康障害要因の最たるものですから、医学的啓発、教育が重要です。職員の禁煙に向けた積極的な姿勢を審査するのは、患者さんの受動喫煙防止策も重要ですが、「いわんや職員においてや」ということです。禁煙教室や禁煙外来のある病院では、活動記録など実績から判断することになります。既にご承知のことと思いますが紹介いたしました。



さやま総合クリニック

ヘルシーコンサート

■各回とも満員、大好評でした。

- ・10/9 ヘルシーソロコンサート『アンドレ・ギャニオン 魅惑の世界』 ピアノ：片桐みどり
☆アンドレ・ギャニオンオリジナル作品
- ・10/16 ヘルシージョイナス 『今日は皆様が演奏家』～体験！チェロ～ チェロ：清野佳子
- ・10/23 ヘルシーデュオコンサート『チェロの調べは妙なる香』 チェロ：清野佳子 ピアノ：鈴木まりえ
☆鳥の歌、シェーマン幻想小曲集等
- ・11/13 ヘルシー特別コンサート『狭山病院改装記念コンサート』
ピアノ：鈴木まりえ、近藤昇 ヴィオラ：岩間俊也
☆ふるさと、赤とんぼ、リベラルタンゴ等
- ・11/20 ヘルシー特別コンサート50回記念コンサート『冬のソナタ』音楽で綴る美しき愛の物語
ピアノ：近藤昇 ヴィオラ：岩間俊也 ヴォーカル：鈴木まりえ シンセ：鈴木弘美
- ・11/27 スタインウェイナイト『雪の花』トニーストリングスカルテット
☆アヴェ・マリア、雪の花、荒城の月、ドイツ舞曲等
- ・12/11 ヘルシーソロコンサート『ブラームスはお好き？』 ピアノ：阿蘇博子
☆小品集、音楽夜会、11のコラール前奏曲等
- ・12/18 ヘルシースタッフコンサート『石心会スタッフによるステージ』
・北田博太(狭山病院婦人科医師) ☆E. グリーク曲集
・山西晶子(狭山病院薬剤師) ☆O. トゥッサン曲集
・山南文香(前狭山病院研修医) ☆R. シューマン曲集
- ・12/25 ヘルシー特別コンサート クリスマスコンサート『アヴェ・マリア』
ピアノ：近藤昇、鈴木まりえ ヴォーカル：鈴木弘美
☆アヴェ・マリア、清しこの夜、サンタが街にやってくる等

★トピックス③

【川崎幸病院】

- 10月1日 医療監視
- 10月23～24日 職員旅行(神戸&大阪USJ)
- 11月15日 石心会グループ川崎地区医師懇親会
- 11月23日 臨床研修指定病院合同セミナーin赤坂プリンスホテル(病院78施設/学生1,306名参加)
- 12月18日 うるおいコンサート(弦楽四重奏)
- 12月22日 クリスマスキャロル
- 1月14日 石心会グループ川崎地区合同新年会
- 定例救急隊勉強会開催(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)
11月27日 『最近の当院に於ける心原性ショックを伴った心筋梗塞の症例』(循環器科：菊池医師)
12月25日 『明日から使えるBLS/ACLS』(内科：向原医師)

【狭山病院】

- 10月14日 狭山保健所による医療法第25条第1項に基づく立入調査
- 10月16・17日 職員旅行(新潟県湯沢) 参加者37名
- 10月23・24日 職員旅行(新潟県湯沢) ホテルにて新潟県中越地震、旅行中断 参加者42名
- 10月30・31日 職員旅行中止 参加予定56名
- 10月29日 本館5階緩和ケア病棟使用許可、2階～4階の病床変更あり
- 11月1日・12月20日 狭山病院ヘルシーデリバリーコンサート
- 11月13日 内覧会(ホールディングルーム、緩和ケア病棟、リハビリテーション室、新西病棟)を地域の開業医の先生方をお招きして開催しました。 参加者116名
※内覧式典/改装記念特別コンサート/懇親会は、さやま総合クリニックにて開催
- 11月14日 職員旅行(日帰り・浅草) 参加者58名
- 11月24日 財団法人日本医療機能評価機構より条件付認定書の交付
(認定書：一般病院、認定期間：2004年10月18日～2005年9月30日)
- 12月11日 看護研究発表会(昭島腎クリニックを含み13題の発表あり)
- 12月13日 本館5階透析室改修工事終了 新診察室及び職員食堂完成
- 12月18・19日 職員旅行(河口湖) 参加者39名
- 12月21日 クリスマスキャロル
- 12月27・28日 狭山市保健センター施設見学 見学者17名
※緩和ケア病棟、外来部門(ホールディング・救急部門)、さやま総合クリニックを見学。当日は緩和ケア病棟の運用についての質問が多くありました。

●院内勉強会

- ・10月5日 採血・点滴時の神経損傷 参加者88名
- ・10月14日 医療安全対策基礎編 参加者57名
- ・10月22日・28日・11月4日 MRI安全講習会 参加者267名
- ・11月9日 クリティカルパス 参加者72名
- ・11月19日 SSI予防のための材料選択/新しい創傷治療 参加者56名
- ・11月22・30日 DPCの概要と一般病院の影響 参加者185名
- ・11月24日・12月2日 危険な薬剤と問合せの多い基本事項 参加者65名
- ・12月7・15日 血液製剤の取り扱いと過誤防止 参加者74名

【川崎胃腸病院】

- 12月18日 健康講座を開催しました。参加者39名

【川崎幸クリニック】

●公開講座

- ・第68回 10/5「高齢者の心」(講師：臨床心理士/稲富正治) 参加52名
※幸文化センターにて新川崎在支と合同開催
- ・第69回 11/30「小児ぜんそくの話」(講師：川崎幸クリニック小児科医師/武田敏江) 参加9名
- ・第70回 12/17「甲状腺の話」(講師：川崎幸クリニック内科部長/九島健二) 参加7名
- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治
・10/20,21 参加計11名 ・11/11,19 参加計19名 ・12/14,17 参加計16名
- 食事の教室 管理栄養士 清水里子
・10/21 「簡単お菓子の作り方、食べ方」～秋の味覚を活かして～ 参加4名

- ・11/18 「高脂血症予防のために」～油脂の適量を知ろう～ 参加14名
- ・12/15 「クリスマスメニュー」～ヘルシーメニューを作ろう～ 参加15名

【さやま総合クリニック】

- 外来糖尿病教室 ※各回4日で1講座です。

- ・第1回 「糖尿病とは」 10/5 11/2 11/30
- ・第2回 「合併症と日常の注意点、足の手入れについて、検査について」 10/13 11/10 12/8
- ・第3回 「薬物療法」「運動療法」 10/20 11/17 12/15
- ・第4回 「食事療法」 10/27 11/24 12/22

●外来栄養教室

- ・10/27 外来糖尿病教室糖友会合同教室『糖尿病の方の上手な間食の取り方』
- ・12/14 糖友会例会『ヘルシーおせち』
- ・12/16 外来栄養教室『ヘルシーおせち』

●健康教室 ※主催：サービス向上委員会

- ・10/23 第2回健康教室『ダイエットの食事』～あなたは適正ですか？いろいろな指標で確認します～
講師：栄養士/鈴木祐子
- ・12/18 第3回健康教室『白内障・緑内障について』 講師：眼科医/土橋尊志

●米国ワージントン市代表団視察

- ・11/6 狭山病院ホールディングルーム・さやま総合クリニック小児科外来など全館見学
※狭山市制施行50周年記念として、米国の姉妹都市であるオハイオ州ワージントン市からの代表団が来日しました。狭山市の医療の実態を見学したいという希望と、代表団のメンバーである、ワージントン市議会議長が小児科医ということもあり、当院へ来院され、救急医療と小児科医療の実態について見学されました。

●狭山病院改装内覧会

- ・11/13 狭山病院内覧会見学後、さやま総合クリニック内で内覧会式典/改装記念特別コンサート/懇親会が開催されました。

【鹿島田クリニック】

- 12月16日 透析ベッド69床に増床完了。
- 12月9日 医療安全講演会(講師：川崎幸病院医療安全管理課課長/今村寿彦) 参加計20名
※患者さんからの苦情等の対応について事例を交えての講演

【アルファメディック】

- 10月5日 総合健診管理システムのバージョンアップ完了。新システムにて業務開始。

【オリーブ】

- 10月30日 第2回ボランティア講座
- 11月6日 第3回ボランティア講座
- 11月17日 第2回普通救急救命講習会(指導：狭山市消防署水野分署救命士署員)
- 12月12日 おむつはずし学会2004(オリーブ事例発表) in厚木市

【在宅部門】

- 10月5日 健康教室「高齢者のこころ」(講師：川崎幸クリニック臨床心理士/稲富正治)を幸市民館にて開催 ※新川崎在宅介護支援センターと川崎幸クリニック共催